



「文化芸術による子供育成総合事業—巡回公演事業—」

我が国の一  
流の文化芸術団体が、小学校・中学校等において公演し、子供たちが優れた舞台芸術を鑑賞する機会を得ることにより、子供たちの発想力やコミュニケーション能力の育成、将来の芸術家の育成や国民の芸術鑑賞能力の向上につなげることを目的としています。事前のワークショップでは、子供たちに実演指導又は鑑賞指導を行います。また、実演では、できるだけ子供たちにも参加してもらいます。

文化庁



制作

公益社団法人 落語芸術協会

〒160-0023 東京都新宿区西新宿6-12-30 芸能花伝舎2階 公益社団法人 落語芸術協会

TEL:03-5909-3080 FAX:03-5909-3082

ホームページ [www.geikyo.com](http://www.geikyo.com) Eメール [info@geikyo.com](mailto:info@geikyo.com)

表紙イラスト: とつか りょうこ

し 知ってますか? ~ 10月1日は「国際音楽の日」です ~

1977年にユネスコの要請で設立された国際音楽評議会という会議で、翌年の1978年から毎年10月1日を、世界の人々が音楽を通じてお互いに仲良くなり交流を深めていくために「国際音楽の日」とすることとしました。

日本では、1994年から毎年10月1日を「国際音楽の日」と定めています。



さん ゆう てい ゆう き  
三遊亭 遊喜



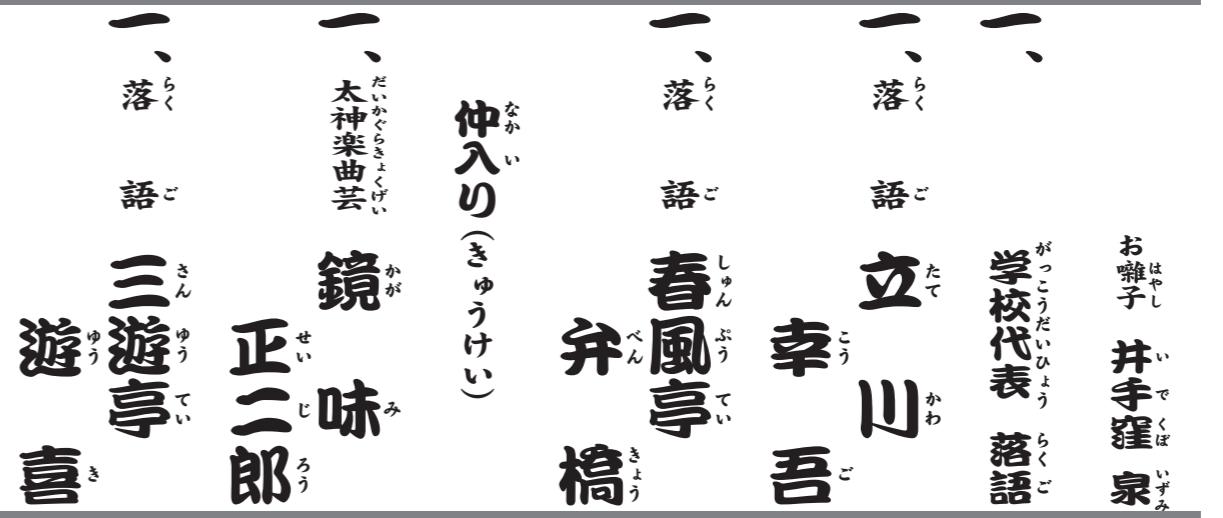
かがみ せいじろう  
鏡味 正二郎



しゅんぶう てい べんきょう  
春風亭 弁橋



たて かわ こう ご  
立川 幸吾



○ 嘣家 (前座) の修行  
嘶家には《前座》↓《二ツ目》↓《真打》という段階があります。厳しい修行を経て、真打になるまでは15年くらいかかります。前座の修行は大変です。落語を覚えるのはもちろんのこと、太鼓も覚えなければなりません。その他、先輩方にお茶を出したり(個々の人の好みを覚えなければなりません)、着物をたんんだりと大変なことがたくさんあります。前座修行を4年間努め晴れて二ツ目昇進です。これからは、自分の芸をみがかなればなりません。

嘶家はいつまでも芸の勉強をしなければならないのです。

マクラとは嘶の本題に入る前にしゃべる、ちょっとした世間話や小咄のことです。事前に演題を発表しない寄席では、嘶家はマクラでお客様の反応を探つてどんな演目にするか選びます。

○ 寄席のいろり  
寄席という人は人を集めて芸能を催す「人寄せ場」の略です。寄席と手ぬぐいの二つを持ち、この小道具をいろいろな形で使いながら、落語の世界を創つていきます。扇子はお箸・筆・刀・キセルなどに。手ぬぐいは財布・煙草入れ・巾着などに見立てて使われます。

江戸時代落語は「落とし廻」と呼ばれています。主なものとして、地口オチ・とたんオチ・仕草オチ・考え方オチ・間抜けオチなどがあります。

○ オチ (へさげ)  
扇子と手ぬぐいの二つを持ち、この小道具をいろいろな形で使いながら、落語の世界を創つていきます。扇子はお箸・筆・刀・キセルなどに。手ぬぐいは財布・煙草入れ・巾着などに見立てて使われます。

○ 落語のスタイル  
扇子と手ぬぐいを持った一人の演者が、座布団の上に座つて滑稽な話をします。嘶家は声色や仕草を父えて、老若男女全ての登場人物を演じ分けます。つまり、話云だけで、お客様は自由に想像力を膨らませ、頭の中に絵を描き出すことにより極上の笑いをかもし出します。

○ 落語の始まり  
落語の始まりは、室町時代末期から安土桃山時代にかけて、戦国大名のそばに仕え、話の相手をしたり、世情を伝えたりする「御伽衆」と呼ばれる人達が、面白おかしく話をし広めたことが起源であるとされています。その中の一人、安樂庵策伝といつ淨土宗の僧侶は、豊臣秀吉の前で滑稽なオチのつく「嘶」を披露して大変喜ばれました。後に、京都所司代の板倉重宗に頼まれて、千余りにものぼる小嘶を「醒睡笑」という書物に記しています。

大阪では「露の五郎兵衛」、江戸では「鹿野武左衛門」などが活躍しました。

江戸時代落語は「落とし廻」と呼ばれています。主なものとして、地口オチ・とたんオチ・仕草オチ・考え方オチ・間抜けオチなどがあります。



〒160-0023  
東京都新宿区西新宿6-12-30  
芸能花伝舎2階  
公益社団法人 落語芸術協会  
TEL.03-5909-3080 FAX.03-5909-3082  
www.geikyo.com  
info@geikyo.com

○ 公益社団法人 落語芸術協会  
公益社団法人落語芸術協会は、寄席芸能を広く普及し後生へ伝える為、昭和5年に日本芸術協会として設立。昭和52年12月に法人許可され「社団法人落語芸術協会」と改称。平成23年4月に「公益社団法人落語芸術協会」と改称。当協会は寄席芸能の責任団体として、東京の寄席の出演を始め全国各地の会館や学校で主催される、寄席(落語)芸能の企画制作を行い、落語の普及に尽力している。また寄席以外に継承にも力を入れ、年間約90ステージに及ぶ若手による落語会を催している。

みなさん初めまして、ぼくはバク助です。  
落語芸術協会のマスコットキャラクターとして生まれました。  
どうしてぼくがマスコットになったかというと、落語をもっと子供のみんなにも聞いてもらいたいと思ったからなんだ。  
「落語」ってちょっとむずかしそうな感じがするよね。  
話しかたなんかも今は少しがうし、名前なんか聞いたこともない道具がいっぱい出てくるし、はじめてだとわからないことだらけだよね。  
そんなむずかしいことをぼくがわかりやすくおしゃてあげるよ。  
でも、ぼくも生まれたばかりだからぜんぶ知ってるわけじゃないんだ。  
けどこれから落語のことをいっぱい勉強していくからだいじょうぶ。  
だからみんなもぼくのことを応援してね。

